

■ 石上露子を語る集い ホームページ閉鎖のお知らせ ■

5 月 14 日（日）第 19 回定期総会をもちまして解散いたしました。

トップ>機関紙「小板橋」191 号>宮本正章代表>萬谷順一顧問>久保満夫

第一九回 定期総会

八方を 塞がれ術なき 蜘蛛の姿 吾とかさなり

いねがたき夜 (芝昇一遺詠)

代表 宮本 正章

題名としました短歌は前代表の芝昇一氏の平成九年の作品です。今度の第一九回定期総会前後に私を夜毎襲っていた現実です。

下段に萬谷順一氏が報告してくださっているように、総会では会を存続すべきか、否かを一人一人述べていただき、採決の結果、過半数で「解散」に決しました。会員の方々にそう結論させたのは、代表たる私のここ二、三年の会の運営の不手際、リーダーシップのなさにあると云われても仕方ありません。私が解散を考えるに至った経緯については、見苦しい自己弁護になりますから述べませんが、私に知恵と勇気がありましたら、事態は変わっていたかとも思います。今、眼前に芝氏の温顔が浮かびます。「いくばくの生の証」（遺詠平成一二年）として残された会を潰すことに、私は幾度も幾度も、氏にお詫び致しました。

会を閉じるにあたって、約一八年間の会の歴史をふりかえっておきたいと思います。

会の名称が決まったのは、平成一一年（一九九九）九月の芝氏主催の露子研究会（寺内町センター）であったらしい。○同年一〇月九日「石上露子を語る集い」の発会式とシンポジウムが市公会堂で行われ、ここで、私は松本和男氏・碓田のぼる・木村勲と云う露子研究の大先達に会いました。○平成一五年六月八日、石上露子歌碑が本町公園に建立され、盛大な除幕式が行われました。○平成一六年二月八日、「石上露子歌碑建立記念の集い」があり、碓田のぼる氏の講演があり、後、碓田氏・芝・宮本で鼎談をしました。○平成一九年六月一〇日、芝氏逝去（於 p L 病院）・享年八四歳。氏は家業（呉服商）の合間に、歌を詠み、エッセイを執筆し、露子研究に励む人でありました。○平成二〇年八月一〇日、芝昇一遺稿集『ひたに生きて』を刊行。○平成二一年（二〇〇九）一〇月八日、高貴寺（河南町平石）に建立した露子歌碑の序幕式を行い、同一二日、市公会堂で「石上露子没後五〇年記念の集い」を開き、露子短歌の独唱と松本和男氏の講演「石上露子と司馬遼太郎」がありました。例会で行ったことや露子生誕祭での講演については省略致します。以上がわれわれの会の簡単な活動の軌跡です。

どうかみなさん、会は解散しましたが、今後も石上露子文芸に親しんでいってください。最後に十年にわたる私へのお力添えに感謝いたします。ありがとうございました。

5 月 25 日 富田林市生涯学習部・富田林市文化財・男女共同参画へ

6 月 8 日 中央公民館・中央図書館へ お礼とご挨拶に行ってきました。